

8月の予定

13～15日 お盆休み



体験農園だより

7月下旬にネギの植え付けを行い、春夏作前期に育てる作物はすべて植え終えました。今年はトウモロコシやトマトなど、美味しいと言ってくださる方が多かったように感じます。しかし今年は例年に比べると雨がとても少なく 高温多湿のためか、夏野菜の中でも人気なキュウリや目玉の一つであるスイカは病害虫被害により収穫量が減ってしまいました。そのほかの野菜は収穫できていますが、時折、葉がしょんぼりしているときがあります。近年は異常気象のためか、年々、福岡の梅雨は降水量が減少傾向のようです。これから少しでも雨が降ることを祈るばかりです。収穫が少ないのは残念でしたが、参加者の方には作物を育てる難しさを感じていただけたのではないかと思います。来期はリベンジ！（飯川）

農場の研修風景

7月28日（木）、この日の福岡市最高気温の予報は35度、筑後では38度の予報とラジオから流れていました。確かにその日は朝7時の収穫作業中でもかなり暑い日差しが照り付けて、厳しい暑さが予想されました。トマトやキュウリなどの夏野菜の収穫作業もピークを過ぎ、出荷準備も短時間で済むようになってきたので、男の研修生は、朝からトウモロコシ畑の片付けということで黒いマルチの撤去作業を行いました。

午前10時を過ぎたころにはすでに35度を超しているような暑さ、そしてマルチの撤去はかなりの重労働であるため出てくる汗が半端ありません。全身ほこりまみれ汗まみれになった私たちは、我慢の限界を超えたため、「行くところはひとつ」ということで、畑の近くを流れている椎葉川へ直行。ちょうどよい深さで泳ぎやすいところがあるので、そこで茹った身体をクールダウン。「わー、なんて気持ちいいのだろうか、最高」と叫びながらひと泳ぎしました。これからまだ暑い日が続きますが、オイスカの研修生は日本の夏を満喫しています。（豊田）

福岡県庁オイスカパネル展、夏野菜販売会実施

7月19日～22日にかけて、福岡県庁1階ロビーにてオイスカ活動を紹介するパネル展を開催しました。そして、その期間中の2日間（21、22日）にわたって、センターで収穫された有機野菜の販売会を実施し、県庁の職員をはじめ多くの方に足を運んでいただき、大賑わいの販売会となりました。今回で夏野菜の販売会は3年目を迎えるため、「昨年スイカを買ってとても美味しかったから今年も買いにきました」と近隣に住む方が嬉しそうに買いに来てくれたり、職員の方からも「オイスカの野菜は他の野菜と味が違うからね」とたくさん購入していただいたりしました。また、オイスカ福岡県議連の先生方もたくさんお見えになり、野菜を購入していただきました。

次回は秋冬野菜の販売会が11月に開催予定となっておりますが、販売会、パネル展を通してより多くの方にオイスカ活動への理解を深めていただけるようにがんばります。（豊田）

ご協力ありがとうございます！

【7月の新入会】（敬称略）

まん菜や、畠田 幸樹、中村 圭一

【7月の寄付品】（敬称略）

ゼンリン、ひよどり精肉店、池田美治、堤慎一郎、クリスター
フリースクール玄海、早良第一交通（株）

鬼木大明神 今月の一句

新型コロナ、ウクライナ、熱中症など様々な問題が次から次に襲いかかる昨今、今迄のような「頑張れ続ける」だけではクリアできない。

頑張る根性はとても重いことだが、
「命懸けの真剣さ」が欠かせない。

「お化けになっても、この問題を俺は絶対に乗り越えるのだ！！」という強い執念執着心を併せ持ち挑戦し続けろ！！さすれば次第に問題が解消して行き、より夢実現に近づけるはずだ！！「戦え！！ひれ伏すな！！」だ。



まるごと!西日本



Instagram



facebook

発行：（公財）オイスカ西日本研修センター まるごと部
福岡市早良区小笠木 678-1
TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322
E-mail: oisca@oisca.org 検索 [オイスカ西日本](#)

日頃の様子を更新中！是非チェックお願いします！

2022年 8・9 合併号



海岸林再生ボランティアツアー in 宮城県名取市

7月12日から14日にかけて佐賀県議会オイスカ国際活動推進議員連盟の7名の議員の先生方をはじめ佐賀のオイスカ会員また西日本研修センターからは豊田副所長が同行して一行15名はオイスカ海岸林再生ツアーで被災地復興を視察しました。今回は震災10年海岸林再生記録「松がつなぐあした」の書籍の現場を訪問してボランティア活動を行う目的で、初日はオイスカ宮城県支部の鈴木副会長のご案内で北釜集落震災メモリアルゾーンを視察、400年守ってきたクロマツ林の再生の道のりについての説明を受け、その後オイスカ海岸林再生プロジェクト名取事務所を訪問しました。午後は曇り空の下「名取市民の森」で植栽後成長したクロマツ林の松に絡まった葛を鎌で除去する作業しました。二日目から雨天になり、スケジュールを視察中心に変更して、震災で被害を受けた遺構の中浜小学校や震災復興伝承館などを視察するなどしてツアーを終えました。佐賀議連の先生方からは今回のボランティアツアーを今後の佐賀県政に生かし、オイスカ活動の更なる支援に繋げていききたいと感想を述べられていました。海岸林再生ツアーにご参加をいただきありがとうございました。（参加者 満川）



名取市民の森でのボランティア活動



海岸林再生現場を視察



名取市震災復興伝承館視察

「きゅうでん米づくりプロジェクト～田んぼの散策」イベントの開催

7月23日（土）、九州電力主催の「きゅうでん米づくりプロジェクト」のイベントが行われ、5月末に田植えをした圃場で、田んぼの散策をしてお米に元気をあげる作業と、オイスカ野菜の収穫作業を楽しみました。参加者は直前のコロナ感染拡大で若干減りましたが、20家族ほどが参加して、稲が大きく育っている様子や、そこに育っている虫たちの様子を観察して楽しんでいました。野菜の収穫作業では、大きく育ったナスやピーマン、ゴーヤなどを子どもたちがたくさん収穫して、大喜びで帰って行きました。コロナの影響で昼食も出せない中ではありましたが、スイカは食べ放題でしたので、皆さんとても満足した様子で楽しんでいただきました。（豊田）



アトリエ木下様で写真撮影、山笠の見学

7月13日にアトリエ木下様にて写真撮影をしていただきました。いろいろなポーズでの撮影で、最初は恥ずかしそうでしたがだんだんポーズをとるのが様になっていました。写真の出来上がりが楽しみです！その後は福岡リパティライオンズクラブ様のご招待で博多祇園山笠の追い山ならしを見学しました。迫力のある山笠に研修生は釘付けでした。アトリエ木下と福岡リパティライオンズクラブの皆様ありがとうございました！（園田）



←博多祇園山笠見学

↓アトリエ木下様での撮影会



日本語の様子③

暑い日が続いています。研修生は早朝からの収穫に始まり、農場の研修に忙しくしています。そのような中、7月 は外部から講師をお呼びして、防災訓練や交通安全教室を行いました。講師の先生方が、やさしい日本語や身振り手振りで教えてください、日本語を聞いて理解する良い機会になったのではと思います。

A クラスは、「みんなの日本語Ⅱ」を勉強しています。意向形(例:勉強しよう、食べよう、行こう)を勉強した際は、研修生たちから、「所長が「ごはん、行こう！行こう！」とよく言っている。」と話してくれました。「それです！」とわたし。教科書で学ぶ日本語と、日常で使われている日本語が一致し、学習意欲が高まったことと思います。

B クラスは、「みんなの日本語Ⅰ」を勉強しています。質問から始まり、話し出したら、止まらなくなる3人なので、なかなか進みません。A クラスのみんなからも、最近 B クラスは上手になったと言われています。

技能実習生は、インドネシア人 14 名のクラスで、元気で明るいクラスです。7月中旬から順次配属されることになり、7月13日が全員揃う最後のクラスになりました。最後の時間に今まで歌ってきた日本の歌3曲を全部歌いました。「それが大事」「ひまわりの約束」「虹」。日本のアニメや歌謡曲が大好きな実習生でした。みんながバラバラになることが寂しくて涙が出てしまう実習生もいました(わたしも)。それでも、基礎研修修了証を手にしたときの表情からは、覚悟を決めていると感じました。初めは、現場での日本語に戸惑うことも多いと思います。今後も彼らをサポートしたいと思います。がんばれ、研修生！実習生！（立石考子）



14名の技能実習生

地球体験村

7月27日(水)に 約3年ぶりとなる第18回オイスカ「集まれ！地球体験村」を実施いたしました。新型コロナウイルス感染症対策として、今回は例年の内容を凝縮した日帰りコースで実施。11名の小学生が参加しました。午前には夏野菜の収穫体験・袋詰めと川遊びを、午後には研修生との交流会、オールドスカウトの方々による手作り体験教室、各国の料理作りを行いました。

収穫体験では4種類の夏野菜を研修生とともに収穫しました。大きな野菜を収穫でき、嬉しそうでした。また川遊びでは気持ちよさそうに泳いでいました。昼食には恒例のそうめん流し(感染症対策を講じています)。みんなで、楽しく、おいしくそうめんをいただきました。

交流会では研修生からそれぞれの母国について紹介。子どもたちはとても熱心に話を聞いていました。少しでも研修生の母国に関心を持ってくれていたら、と思います。その後、ゴム鉄砲づくりを体験。なかなかうまくいかない子もいましたが、オールドスカウトの皆様のサポートにより何とか満足いく作品が仕上がりました！最後に各国の料理作りを行いました。今回はバクソ(インドネシア)、ホーショル(モンゴル)、ハロハロ(フィリピン)の調理を体験。おいしく料理ができたようで、誰一人として残さず完食しました！収穫体験だけでなく、国際交流ができるオイスカならではのイベント。参加者の皆様だけでなく、研修生たちも楽しめたようです！来年はもっと賑やかに実施出来たらと思います。(飯川)



フリースクール玄海生徒宿泊研修 7月25日から29日にかけて、NPO 法人塩浜学園フリースクール玄海(古賀市)より生徒3名が宿泊研修で来所しました。生徒は海外の研修生達と寝食を共にしながら、早朝より夏野菜の収穫作業をしたり、地球体験村の交流会では海外の研修生から母国の紹介を受けるなど、海外の事情について学びました。また農業体験では、海外研修生とカボチャやブルーベリー等の収穫作業を中心に行いました。今年9月からは海外研修にもチャレンジして、貴重な経験を積みステップアップしてこれからたくさんのことを学んでいくことになります。ファイト!(満川)



研修生と記念撮影



技能実習生実習先配属

5月中旬より入国した14名のインドネシア実習生が、2か月の入国後講習を終え7月中旬より随時実習先へ配属されました。コロナ過に入り、受入実習先、実習生ともに長い人は2年近く入国が遅れましたので、ようやくこの日がやってきました。

入国当初は、初めての海外、来日もあって不安を抱えている実習生もいましたが、この2か月間は、同期の実習生とともに楽しく日本での生活、習慣、日本語について学びました。今後は、それぞれの実習先で実際に仕事、生活を行わなければいけません。これからが彼らにとって本番です。まずは、体調に十分気を付けながら早く仕事を覚えてもらい技術を学びながら頑張ってもらいたいです。(彦坂)

(有)アイ・アイ・ディ (酪農)



配属日、アリ、ソフィ

(株)中野建設



先輩ルスディ、ミアさんと

(有)秋重建設



中垣夫妻訪問、ダルソノ



先輩とルディ(中央)

(株)鶴田工業



作業着の試着、ブブン、アルフィン

(株)オークマ 朝倉工場



工場長あいさつ、アリエル、アントン

甘木工場



アハマド、ヨガ

九州住宅工業(株)



- ・作業着の試着
 - ・フィルマン、アスアリ、トハ
- (左から)

交通安全教室・防災訓練 農業研修生も基礎研修が終わり、技能実習生も配属日を控えそれぞれ1年、3年の日本で研修・実習、生活をしていくためにも早良警察署の指導のもと交通安全教室・防犯指導を行いました。また、会員の寿防災様の指導で避難訓練、消火器の使用方法を学びました。技能実習生は、福岡市防災センターにも行って防災体験も実施しました。これからの日本での生活で安心・安全に過ごせるように、みんな楽しみながらも交通安全、防犯、防災について学ぶことができました。(彦坂)



防犯指導



交通安全教室



避難訓練



消火器を使った消火訓練

会員さま紹介コーナー(ラブ・グリーンの会理事長 西 秀樹様)

ラブ・グリーンの会は1985年の「国際青年年」「国際森林年」を記念してスタートした「ラブ・グリーン」の翼事業も今年37年目を迎え、この間「継続こそ力なり」を合言葉にのべ1464名の市民が事業に携わり、フィリピン・マレーシア・フィジー・タイ・インドネシアにおいて熱帯雨林の再生保全(5ヶ国:48回:59万6千本の植林)に取り組み、現地の人々の理解と協力により、みごとに「森」を蘇らせています。「ラブ・グリーン」の翼事業も昨年2月よりコロナ禍の中で、新たな試みとしてWeb中継による「オンライン植林プロジェクト」を実施し事業の継続ができました。しかしながら2021年度は7月の定期総会で「オンライン植林プロジェクト」の継続を進めていましたが、タイ国内でのコロナ感染が厳しい状況が続き実施期間を決定できないままWEB中継での植林プロジェクト事業を断念することになりました。本年度も厳しい状況下ではありますが、平成唯一の三冠王松中信彦氏が13年前から「ホームラン・チャリティ」により支援してきたタイ王国での植林事業において、37年目の今回はタイ南部パンガー県に「ラブ・グリーン」の翼を派遣し、松中恵子夫人参加のもとマングローブ林再生・保全のための第2の「松中信彦マングローブの森再生プロジェクト」による2回目の植林を実施します。

ラブ・グリーンの翼2022 in タイ パンガー

《時期》 2022年8月24日(水)~29日(月)
《構成》 主 催: ラブ・グリーンの会
助成支援: 松中信彦ラブグリーン・チャリティ
松中恵子グリーン・プロジェクト
協 力: (公財)オイスカ
(公財)オイスカ西日本研修センター
オイスカ・タイ総局
タイ天然資源・環境省 海洋沿岸資源局第6

【お問い合わせ先】

ラブ・グリーンの会 事務局
〒818-0053
福岡県筑紫野市天拝坂1-6-9
ラブ・グリーンの会 代表 西 秀樹
Tel: 092-920-5679 FAX: 092-920-5679
Mail: lovegreen@tkg.bbq.jp



西理事長



松中夫妻

株式会社サンリブより寄付金贈呈

オイスカ会員企業の(株)サンリブでは大分、熊本、宮崎県内各店舗で回収された使用済みトレイから「エコトレイ」を造る循環型リサイクルに参加されています。2021年度(2021年3月から2022年2月)における使用済みトレイの還元金をオイスカ西日本研修センターに全額ご寄付いただきました。(株)サンリブは九州、山口、広島を中心に123店舗を展開しているスーパーマーケットで現在スーパーのレジ袋にオイスカの文言を入れてPRをしていただいております。今後はレジ袋の収益やオイスカ農産物の取り扱いについてもご検討をいただけることになっています。本日のご寄付誠に有難うございました。(満川)

(株)サンリブ レジ袋



(株)サンリブ執行役員河野部長様より廣瀬所長へ寄付金目録贈呈

“ほんの少し”から広がる、大切な未来。

環境保護のため、お買物の際はマイバッグの持参にご協力下さい。



この袋の代金の一部は、(公財)オイスカの地球環境保全活動の支援にあてられています。

OB 研修生の紹介

つい先日、去年の12月に帰国したパプアニューギニアの研修生マックスさんから写真のレポートが届きましたので何枚か紹介させていただきます。マックスさんは帰国した後、オイスカラバウル研修センターでスタッフとして研修生に農業の指導を行い、周囲からも高い評価を得ているそうです。

ラバウル研修センターは経営的にも厳しい状況が続いていますが、研修生も数多く受け入れているので、日本で得た経験を活かして頑張してほしいものです。



田植え



ナスの栽培



苗床



白菜



白菜のパッキング



草取り



スイカ



ボカシ作り



畑の管理

公式SNSを
フォローして
オイスカの「今」
を知ろう！



Website



Facebook



YouTube



Twitter



Instagram



メールマガジン

